

第2回「安全を持続的に確保するための
今後の河川管理のあり方検討小委員会」
主なご意見(案)

■持続的に安全を確保するための仕組みの構築

- ・河川の管理は、規模や重要度だけで括れない部分もあり、例えば土で出来た堤防はローカルな履歴や経緯を生かすことが重要。
- ・河川の維持管理に対する様々な方策や戦略を持続的に実行していくため、これまでの取り組みで上手く行っている事例などをとりまとめ、共有したらいいのではないか。
- ・台帳の標準化は重要な課題であり、異なる台帳の情報・データのリンゲージをどのようにとっていくのか。道路の例ではキロポストを軸に異なる台帳を全部集約化している。
- ・海岸構造物については、台帳を作るところから始めなければならない。世界と共有できるように検討が必要。
- ・河川管理のデータベースや台帳については、都道府県管理の河川管理施設や許可工作物も含めて情報集約・共有すべき。
- ・社会資本のアセットマネジメントの国際標準化（ISO55000）が進んでいるが、河川への適用を含め、世界の動向を踏まえた対応を考えていく必要がある。
- ・更新コストの検討は実態を踏まえ残存期間を評価していく必要がある。コンクリート構造物や設備・機械類については統計的な劣化予測が可能であり、予測モデルの国際標準化が進んでいる。
- ・「予防保全」「事後保全」の言葉について、河川への適用にあたり定義を整理しておく必要がある。
- ・占用目的を喪失した工作物や管理が行き届いていない工作物については適切に対処すべき。
- ・河川管理上支障となっている許可工作物を是正、代執行するための予算制度や法制度の検討も必要ではないか。
- ・許可工作物についても、台帳の規格化、管理水準の統一性、互換性の考慮が必要。
- ・管理の主役は「人」である。操作人の高齢化への対応、若年層への技術伝承など、人が減る中で代替システムをどうするか。
- ・技術開発については効果が明かでないものは取り組みづらいとの声を聞く。取り組みやすい仕組みの整備を。
- ・例えば樹木管理は河道管理の中の一つであり、狭義の管理の視点ではなくもっと大きくとらえ維持管理の仕組みとしていくべき。
- ・占用施設の管理のあり方についても河道管理全体の中で考えるべき。

■河川の管理における危機対応能力の向上

- ・設備や機械の管理では、部品の調達や日常的にあまり稼働してない施設をどう動かしていくかを通常のマネジメントにプラスして管理していくことが必要。
- ・管理はメンテナンスの観点のみならず、危機を如何にコントロールするかということが非常に重要である。治水設備についても絶対に守らなくてはならない機能とそうでない機能に着目した危機管理を考える必要がある。
- ・維持管理システム（ソフト）そのものの維持管理も考慮すべき
- ・遠賀川は河川施設数の多い河川であり、施設の統合化や長寿命化が重要な課題。また、これら施設を遠隔操作などが出来るような取り組みが出来ないか。
- ・水防活動等で実際に活動する地元の協力業者が疲弊してきている状況にあり、安全を持続的に確保するためにも、弾力的に活用出来る仕組みが必要ではないか。
- ・破堤後の対応については、0-100の対応だけでなく、軽減策についても考慮し対応すること。

■資源・エネルギーとしての河川の利活用と守り養う担い手の再構築

- ・河川環境のモニタリングなどの管理をNPO等に任せるような仕組みを検討出来ないか。例えば都市緑地法の管理協定制度のような仕組みが出来ないか。
- ・伐木、刈草の利用の関係は、実務的に動かしやすい制度や仕組みの検討が必要。
- ・市民団体や企業の河川管理への参画を法的にどの様に位置付けるのか。
- ・河川改修に伴い樹木伐採を行っている河川もある。維持管理だけのフェーズだけで現実的に今のバイオマスを管理できるのか。
- ・河川環境の管理目標は必ずしも統一されておらず幅広いため、絞り込む必要があるのではないか。

■社会的な要請を受けこれからの河川の管理として取り組んで行くべき新たな対応

- ・河川管理の思考モデルが一旦完結していることは前回も申し上げたが、これまでの河川法の枠組みから外れている部分に如何に取り組むかを検討する必要があるのでは。
- ・水質事故の対応で関係機関との情報共有の強化は重要であるが、その中で誰が仕切っていくのかといった点が必要。
- ・小水力については、投資効果・効率も考慮していくべき。
- ・流域一体の話については、省全体で検討するべき。
- ・計画を越える洪水に対する許可工作物の考え方についても整理が必要ではないか。
- ・超過洪水への対応等については、本委員会では課題の整理を行い、別の場で今後の対応を検討することも考えて欲しい。

■その他

- ・課題整理について、背景に記載の「厳しい財政状況」「少子高齢化」については劣後。さらに課題については深掘りした記述を。